

裸地化の残酷さ

H・K

最初は裸地化を知るつもりでした。

きっかけは磐梯山の本を見て裸地化は残酷だということがわかったからです。

もともとはただの坂道だったのが裸地化することによって道にある植物がなくなり、ただの道になってしまう、という事になるからです。

裸地化しまうと直しようがなくなっていきます。

これ以上裸地化になるのを防ぐために、立入り禁止の柵ができたりと対策が練られていく中で裸地化がおさまっていくと今度は湿原に踏み込む人や植物を掘りとりたりする人などが次々として出てきていてそんなことを調べたいです。

洗掘も裸地化がひどくなったような感じで植物がなくなるだけでなく大きな溝ができるようになっていくのです。

洗掘も裸地化も1回ひどくなってしまうと直せないのです、その対策なども調べたいです。

1日目はバードウォッチングでした。

最初に見たのはツタウルシという、毒を持った木で見た目はただの木に葉が付いているだけの木なのですがこのツタウルシは肌が弱い人が触ると肌が荒れたり、かぶれたりするそうです。

しばらく歩いていると、蚊が凄くて大変でした。

また行くと、今度はナメクジが、を見てそれも千葉で見ると同じような大きさではなくてすごく大きくてそれを先生に聞いたら「山ナメクジだね」と言っていました。

山ナメクジは主に「キノコ」を食べるそうです。

2日目は磐梯山に登る予定でしたが天気の問題で磐梯山に登るのではなく、雄国山に登る事になりました。

雄国山は磐梯山より少し小さいだけでほとんど道のりは変わらないそうです。スタートから数分で小さい川みたいなのに遭遇しました。すごくきれいで水の下は土なのにそこまでが透き通っていてすごいな、と思いました。

やっというほどに歩き、やっと頂上につき、そこからの景色は最高でした。

自然体験学習ですごく心に残っている学んだことは、まず福島の人々がとにかく明るくしてくれるということです。

311の「東日本大震災」がありながらも明るく、まだ大変な時期に行ったのに暖かく迎え入れてくれたのがすごくうれしかったです。

雄国山に行った時は「助け合い」と「協力」を学びました。

その中でもみんなで頂上に登った時は「協力と助け合いをしてここまで登ったんだな」と思いました。

得に「協力」と「助け合い」を感じた時は、登っている途中で1人だけ遅い人がいて、その人を、「がんばれ」と言いながら、登ったことです。

キャンドルファイアーではいろいろやった中で一番心に残っているのがみんなで協力してやった出し物です。少ししかない時間で喧嘩などもありましたが最後には無事成功したのでよかったです。

いろいろなことを学んだので、その学んだことをいろいろな事や場所に生かしていきたいと思いました。